

2012年5月18日

東京スカイツリータウン®に
「生コンクリート工場発祥の地」記念碑がお目見え

間もなく開業を迎える東京スカイツリータウンに、「生コンクリート工場発祥の地」記念碑が設置されましたのでお知らせいたします。

この記念碑は、当社が、1949年に東京都墨田区の東武鉄道・業平橋駅構内に設立した日本初の生コンクリート工場を記念し、工場の操業50周年にあたる1999年11月に建立したものです。同工場は、東京スカイツリーの建設にあたり、2007年10月に閉鎖。記念碑も一時的に移設・保管しておりましたが、東京スカイツリーの開業に合わせ、工場跡地である東京スカイツリータウンの一角にお目見えすることになりました。

スカイツリータウンにお越しの際にはぜひお立ち寄りくだされば幸いです。



【本件に関する問い合わせ先】

総務部 IR 広報グループ TEL03-5211-4927 FAX03-3221-4652

※別紙

参考資料

「日本初の生コンクリート工場ものがたり」(住友大阪セメント CSR レポート 2011 より)

※参考資料 住友大阪セメント CSR レポート 2011 より

NEWS・4

日本初の生コンクリート工場ものがたり



東京都墨田区業平橋・押上地区



創業当時の業平橋工場

今から62年前の1949(昭和24)年11月、東京都墨田区の東武鉄道・業平橋駅構内に日本初の生コンクリート工場が誕生しました。

生コンクリート(生コン)とはセメント・水・砂・砂利を配合して練ったもので、当時は建設現場で練るのが一般的でした。ただ、品質のバラつきが大きく、良質で安全な製品とは言えませんでした。これをあらかじめ工場で製造すれば、構造物に適した、かつ安定した生コンとして供給できるという考えから、生コン工場建設の構想は戦前からありましたが、実現には至っていませんでした。

当社の前身である磐城セメントに生コン工場建設の構想が持ち込まれたのは1948年(昭和23)年7月のこと。工場の建設地として選ばれたのは東京都墨田区の東武鉄道・業平橋駅構内で、この地が選ばれたのは原料のセメントが当社の栃木工場から鉄道輸送するのに便利な場所であったこと、やがて本

格化する都心の生コン需要への対応を見据えていたことなどの理由でした。

操業当初は多くの試行錯誤を経験し、特に輸送面で多くの苦勞を強いられましたが、使用面では施工が簡単であり、工事費も割安になることなどから、世間の生コンに対する認識は急速に高まり、道路・軌道工事を中心に建設会社や東京都交通局から生コン使用が指定されるようになりました。工場の出荷第一号は地下鉄銀座線・三越前駅の出入口の補修工事であったといわれています。

マンホール工事などの土木工事の他、各種建築物向けにも納入され、多くは今なお立派に現存しています。

生コンのパイオニアとして多くの功績を残した業平橋工場ですが、工場周辺の再開発事業により2007年10月にその役割を終えました。そして、東京の発展を支えてきた場所である工場跡地は、新たな東京のシンボルである東京スカイツリー建設地として新しく生まれ変わろうとしています。



昭和35年頃 業平橋駅構内のホッパー設備
画像提供：東武博物館・館長 花上 嘉成氏



当時の地下鉄工事での生コン打設作業

その後、1951(昭和26)年に着工した地下鉄丸ノ内線工事に大量に使用されたことで社会的な信用が確立され、これを機に東京都の道路、護岸、軌道、



東京スカイツリー®
画像提供：東武鉄道株式会社・東武タワースカイツリー株式会社